

令和 7 年 7 月 15 日（火）に、台湾国立嘉義高級中学から 16 名の生徒と 1 名の引率教諭 楊韻平先生が来校しました。本校 SSH 事業では「トランス・サイエンス社会」で自己実現できる「科学技術イノベーション・リーダー」の育成を目指して研究を行っており、その一環として国際性、英語運用能力を伸ばし、科学技術への理解を深めることを目的とした国際交流に取り組んできました。台湾との交流は新型コロナウイルス感染症により一度中断されましたが、令和 4 年度より嘉義高級中学との交流を皮切りに再び復活させることができました。本校では来年 3 月には台湾研修を計画しており、今回の交流は台湾との絆をより深める良い機会となりました。



歓迎式

嘉義高級中学の生徒たちは、バスで本校に 9 時 10 分に到着しました。本校生徒 16 名は台湾の生徒一人一人に向け作成したネームカードを掲げ、台湾からのお客様をお迎えしました。

9 時 15 分から始められた歓迎式では本校の樽野幸義校長が歓迎の挨拶を行うと、嘉義高級中学 楊韻平先生は流暢な日本語でご挨拶してくださいました。「今回は日本語クラスの生徒が来ており、この交流に大きな期待を抱いています。」と述べ、この交流にかける思いを伝えていました。またプレゼント交換では、お互いの文化を象徴する贈り物が贈られ、友好の印として記憶に残るセレモニーとなりました。



樽野校長と楊韻平先生(左)



嘉義高中代表生徒



歓迎の挨拶をする高橋夢叶さん

体験授業

歓迎式後、嘉義高級の生徒は本校 2 学年で行われている授業を体験しました。お世話役のバディ生徒の案内によりそれぞれの教室に分かれ、数学や地学そして国語の授業などを体験しました。来校した生徒たちは日本語の学習を十分に積み、日常的なやり取りが十分に可能であるため、しっかりと授業内容も理解できた様子でした。体験授業中に笑い声が教室から溢れ出るほどの盛り上がりを見せたクラスもあったほどでした。

一高科学の甲子園

体験授業後は、物理実験室において「一高科学の甲子園」を行いました。「A4用紙1枚を使用し、できるだけ遅く落下する物体を製作する」ことが実験活動の内容です。① A4用紙のみで製作しそれ以外は使用しない、② 接着剤は使用しない、③ A4用紙すべてを使用する必要はない、④ 高さ1.6mから班の代表1名が自由落下させる、⑤ 地面に落下するまでの時間を教員2名がストップウォッチで計測し時間が長い方を記録として採用する、というルールを定めました。合計2回の落下速度計測を行い上位3チームが表彰を受けました。英語による協議を中心に、各チームは工夫を凝らし熱心に落下物の作成に取り組みました。優勝したチームは20cm×20cmの構造物を作成し、空気抵抗を上手く利用することで2秒を超えるタイムを計測することができました。



異文化交流会



英語による一高紹介



台湾応援団パフォーマンス



学校紹介動画



台湾常識クイズ

昼食を挟み午後は異文化交流会を行いました。ここでは仙台一高学校紹介、オリジナル動画紹介、一高クイズ、台湾常識クイズ、応援団パフォーマンスが行われました。まず、学校紹介動画では本校校長先生の登場で大きな笑いが起きました。また、台湾常識クイズでは台湾の食文化や若者文化をテーマに、日本との違いを理解する内容が問いとして提供され、大きな盛り上がりを見せました。そして、台湾式の応援にお返しすべく行われた一高応援団のエールでは、生徒一丸となって行われた一高の応援に嘉義高級中学の生徒、先生方は圧倒され大きな反響を呼び起こしていました。

【編集後記】

短い時間ではありましたが、今回の国際交流では多くのことを学ぶことができました。特に印象に残ったのは、嘉義高中の生徒の英語の確かさです。3月に予定されている台湾研修に向けて、しっかりと台湾の知識を身につけ、同時に自分たちの英語力を嘉義の生徒に負けないように高めたいと思いました。

